科目ナンバリング	LAAA2BA1J141		
科目区分	APU教養特別科目	対象学年（以上）	1年
科目名称	県大エッセンシャル	単位数	2単位
講義題目	演劇、コミュニケーション、他者理解	曜日・時限	月曜4限
担当教員	四ツ谷　亮子、若松　伸哉、ジメネス　ラム　フェリックス アウグスト、藤原　智也、吉田　理加、河邉　紅美	開講時期	2025年度前期
実務経験のある教員等による授業科目	該当する	授業アンケート	対象
到達目標	本学には「多文化社会とコミュニケーション」「言語コミュニケーションと多様性」といった「コミュニケーション」に関する教養教育科目がある。それぞれが、国籍、民族、言語、ジェンダー、階級などの差異に派生する諸問題を認識し、その解決に向けて思考する科目である。そこで、本年度の「県大エッセンシャル(前期)」は、、コミュニケーションの本質を問い直し、他のコミュニケーション関連科目を補強しつつ、文化差以前の問題としての「コミュニケーション」のあり方そのものをテーマとし、「伝えること」と「他者理解」の困難さを原理的に理解することを目的とする。		
授業概要	映画『ちはやふる』の撮影開始に当たって、広瀬すず、真剣佑、上白石萌音ら俳優陣に演技指導した演出家の平田オリザ氏から、県大の学生が直接指導を受けられる貴重な機会です。 演劇的手法を導入することで、異文化や他者への接触を「フィクションの力を借りてシミュレートする」手法を学びます。というのも、「演劇は、常に他者を演じることができる」からです。 そのために、 1. 作家・演出者である平田オリザ氏による2回のワークショップを開催する。 2. 平田氏率いる劇団「青年団」のメンバーによる3回のワークショップを実施し、実際に体と頭と言葉を用いたコミュニケーション実践による体験学習をおこなう。 3. 5学部連携科目として、本学5学部代表講師によるさまざまな専門的視点に基づき、コミュニケーションと他者理解に関する講義をおこなう。 4. 演劇的手法に基づいたグループワークをおこなう。 ※平田オリザ氏について： 劇作家、演出家、芸術文化観光専門職大学学長。大学在学中に劇団「青年団」を結成、こまばアゴラ劇場を拠点に活動。1995年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞、2003年『その河をこえて、五月』で第2回朝日舞台芸術賞グランプリ。2011年フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。その戯曲はフランスを中心に世界各国語に翻訳・出版されている。現在、江原河畔劇場 芸術総監督、こまばアゴラ劇場芸術総監督、豊岡演劇祭フェスティバル・ディレクター、豊岡市文化政策担当参与。2019年より豊岡市日高町に移住、2020年に劇団の新拠点となる江原河畔劇場を設立。コミュニケーションデザインの教育・研究に携わるとともに、日本各地の学校において、対話劇やワークショップを実践するなど、演劇の手法を取り入れた教育プログラムの支援・開発にも力を注ぐ。		
授業計画	※第2回と第3回は、ゲスト講師会のため、開催が通常の曜日・時限と異なり、**4月26日（土）の13：00～14：25 / 14：35～16：00** に開催されます！ 第1回：ガイダンス（教養教育センター） 第2回・第３回：平田オリザ氏によるワークショップ＜**※4/26（土）午後開催**＞ 第4回～第6回：村井まどか氏・髙橋智子氏（劇団「青年団」）によるワークショップ 第7回：中間まとめ（教養教育センター） 第8回：「前衛演劇に見る身体表現」（日本文化学部担当） 第9回：「法廷通訳と異文化コミュニケーション」（外国語学部担当） 第10回：「アサーション：自分も相手も大切にするコミュニケーション」（看護学部担当）「 第11回：「アート表現と異文化理解 ～進化、宗教、グローバル化～」（教育福祉学部担当） 第12回：「ロボットと人間のコミュニケーション～ロボットとの共同学習に抱く印象～ 」（情報科学部担当） 第13回～第15回：グループワークと成果発表（教養教育センター）		
実施方法	ワークショップ、オムニバス講義、グループワーク。		
使用言語	日本語		
授業時間外の学習（予習・復習）	他の教養教育科目や所属学部の専門科目と、自ら関連づける思考を持続させること。各回についてのショートエッセイに取り組む時間を大事にすること。		
履修上の注意	※第2回と第3回は、ゲスト講師会のため、開催が通常の曜日・時限と異なり、**4月26日（土）の 13：00～14：25 / 14：35～16：00** に開催されます！		

	他のコミュニケーション関連科目、多文化関連科目とのつながりを良く意識して受講すること。 他のコミュニケーション関連科目、多文化関連科目での受講経験をふまえて、コミュニケーションと多文化理解について再考したい2年生以上にも推奨する。 関連科目：教養教育科目全般と所属学部専門科目。 受講要件：系統づけて受講すること。 その他：ワークショップやグループワークへの積極的な参加、講義での積極的な質問・意見を心がけること。
成績評価の方法	評価基準： 1. 各回ごとに提出するエッセイ 50% 2. 最終成果発表（グループワーク）30% 3. 積極的な参加・質問・発言・授業貢献度 20% 評価方法：ワークショップやグループワークへの参加・貢献、提出物（**授業内容に具体的に触れた内容が求められる**）、講義中の質問・意見。

学問知	1	◎	2		3-1		3-2		3-3	
技能知	4	◎	5		6-1		6-2		6-3	
実践知	7		8	○	9					

教科書	特になし。
参考書、教材等	1. 平田オリザ（著）『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』（講談社現代新書） 2. 平田オリザ（著）『対話のレッスン 日本人のためのコミュニケーション術 』(講談社学術文庫)
交換留学生受講制限	N5/A1

評価の詳細は学生便覧を参照